

4. 芝浦・協働会館をとりまく歴史を活かしたまちづくり

芝浦・協働会館を活かす会（協働会）
（東京都港区）

I. 活動の背景と目的

東京都港区芝浦1丁目に「協働会館」という元の芝浦花柳界の見番が残っています。

花柳界とは芸者のいる「置屋」、宴会のできる場所である「料亭」、芸者を呼んで遊興する「待合」という「三業」から構成されています。これらの三業をとりまとめ、芸者の取り次ぎや清算を行うのが「見番」です。

協働会館は昭和11年の建築で、1階が事務所空間で2階には100畳もある舞台付きの大広間がある立派な木造の近代和風建築です。戦時中に花柳界が疎開した後、港湾労働者宿泊所に転用されました。1階には管理人室と宿泊施設があり、2階の大広間は一般貸出しでお稽古事や地域の集会の場として利用されてきました。

現在は、東京都港湾局が所有していますが、築60年以上経ち、老朽化してきたことを理由に東京都では建替えの計画を進めてきました。そのことを知った市民が集まり、建物の保存・活用を考える「芝浦・協働会館を活かす会」が平成9年6月に発足いたしました。

会では、建物に関する調査だけでなく、建物の建つ芝浦の町の歴史なども調べ、協働会館を核としたまちづくりが展開できないかを検討し、関係機関にアピールして建物の現地保存と活用をはかることを目的として活動してきました。

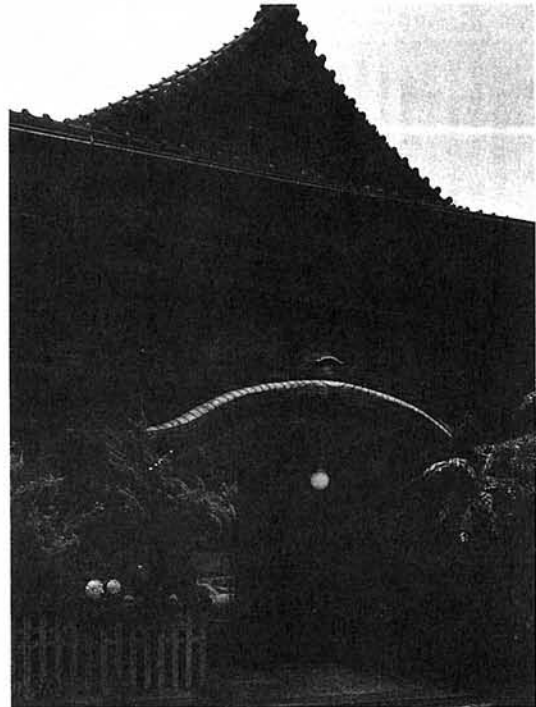
II. 活動の内容

平成10年度には、ハウジングアンドコミュニティ財団より助成金を受けましたが、これを機会に今まで調べてきたことをまとめ、冊子「協働会館」を作成し、さらに協働会館の現地での保存・活用をアピールすることにいたしました。

そのために、主に以下のような活動をしました。

①建物やまちの様子についてのヒアリング

協働会館の関係者だけでなく、芝浦のまちについて、昭和初期の様子などをヒアリングしました。ヒアリングにあたっては、地元在住者だけでなく、以前住んでいた人にもお話を伺いました。そのために、地元の竹芝小学校（現在は廃校されてない）の同窓会にてア



協働会館の情景
唐破風と空に向かってのびる屋根が美しい。今でもモノレールからビルの隙間にこの姿を見ることが出来る。
撮影/宮本隆司

協働会館

アンケートを配布し、昔の様子を書いていただきました。アンケートを寄せてくださった人の中で、特に詳しく書いてくださった方には直接、お話を伺い更に情報を集めました。

②建物の実測調査

協働会館は、正確には第1寮から第6寮までの6棟の建物を総称した名称です。会の活動では、元の見番であった第5寮を中心に活動を広げてきましたが、第6寮の急遽取り壊しが決まったので、平成11年3月に実測調査を行いました。第5寮については、平成10年度に耐震調査等を行っています。

③関係機関や有識者へのインタビュー

建替え計画の内容がどうなっているのか、また、現地で残していく方法にはどのようなことがあるのかを探るために、以下の様に関係機関や有識者の方々へインタビューをしました。



ヒアリング



協働会館第6寮 建物調査

また、東京都に対しては、文書での情報提供依頼もいたしました。

●東京都 教育委員会

～文化財としての可能性について～

協働会館の価値については、建物単体でなく、有形民俗文化財として文化的・民俗的な方向からの価値づけから考えると貴重な存在であろう。都市民俗として、花街が、東京の歴史にかかわってきた位置付けが重要。

●港区 教育委員会

～文化財に関して、地元区としてどう対応できるかを聞く～

建造物としては調査・検討済みで、文化財指定は難しく、再調査の予定は今のところない。民俗的な視点でみると見番として使用された期間が戦前のみで短いのが弱いだろう。港区からは、所有者である東京都に対して「保存して再開発を考えて欲しい。残せるのなら残して下さい。」ということまでしかいえない。

●東京都 港湾局

～再開発の状況と所有者としての意向を聞く～

再開発については30年来の計画で、行わないことはあり得ない。住宅供給のための建物にし、都民住宅50戸、港湾労働者宿泊施設40部屋、多目的文化施設の入った建物1棟の検

討をしている。平成11年度に12年度の予算要求をし、11年度に設計協議、12年度に着工をしたく思っている。開発手法としては、都心居住型再開発を検討。

現在の建物については、元見番の1棟を12年度にたても園へ移築することを考えている。

●東京都生活文化局

～歴史的建造物保存を進める立場として聞く～

東京都生活文化局では「歴史的建造物景観意匠保存事業」を推進し、協働会館もその調査対象に含まれ、所有者の意向によってはこの制度の内容のはたらきかけが出来ると思う。「たても園」への移築の話はなくなったわけではないがあくまでも次善の策で、現地で存続・活用させていくことが一番。しかし土地の有効利用を望む声も無視出来ないことも確か。

協働会館を活かす会のようにこれからのまちづくり、建物の活用のしかた、その管理の提案まで考えながら現地で活用していきたいと要望することは大事。

●依元昭先生（港区文化財保護審議会委員）

～文化財としての価値について、また今後の活動のあり方について聞く～

花柳界の社会的機能を研究しており、“芝浦にのみ戦前の見番建築の典型が都内で唯一残っている”という客観的事実は大きな価値になる。ただし、花柳界に対するアレルギーが社会にあるので、残す方策や対案をきちんと考えながら、多くの人に理解が得られるように活動をすすめるのがよい。

以上のようなご意見をいただきました。

④イベント（掃除を含む）

建物の魅力をアピールし、より多くの人に協働会館の建物に親んでもらえるように企画しました。10年度には以下のようなイベントを行いました。

4月「春を祝う会」自由参加の交流会。35名が参加。

9月「寄席囃子 その世界」を開催。あわせて建物見学会も実施。延べで90名ほどが来場。

地元には来場しやすいように町会経由で招待券を配りました。

12月「年末大掃除大会&忘年会」建物の畳や壁など普段は手のまわらないところまでをきれいに掃除。その後は、ワインに鳥の丸焼きで、クリスマス気分の忘年会をしました。

地元町会の方や普段は活動に参加できない人なども集まり、良い交流会となりました。

⑤町並みゼミでの発表

より多くの建物や町並みに興味のある人達にアピールするために「全国町並みゼミ 東京大会」参加し、分科会と全体会議のそれぞれで発表しました。これをきっかけに会の活動に参加してくれるようになった人ができたり、マスコミからの問合せがきたりするようになりました。



イベント「寄席囃子その世界」

⑥活用提案のためのワークショップ

調査するだけでなく建物の保存・活用のための提案作業をワークショップ

形式で行いました。地元の方も含め、参加者は13名でした。作業としては、

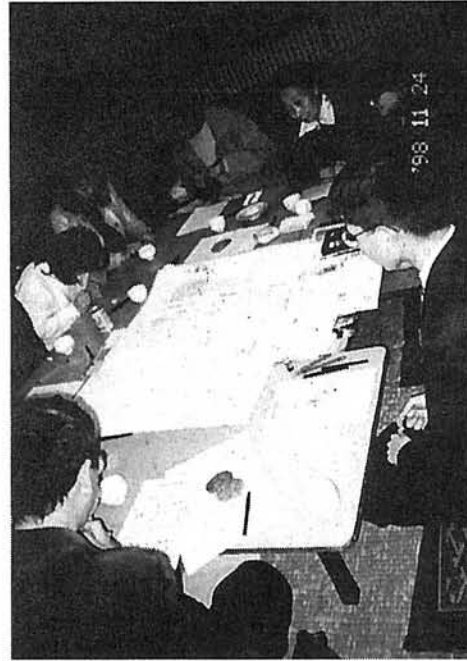
1. 協働会館の良いところをかき出す作業
2. 具体的な提案をする作業をおこないました。

提案では、

- 建物の音響と雰囲気の良いを活かして、伝統や新しい話芸や舞踏を中心に、まちの人も気軽に利用できる場として積極的に活用するという案。
- 周囲の建物ともあわせて、旅館や料理屋、若者や子供などが和風の木造空間を体験できる場とするという案。
- 芝浦は、羽田空港や観光地の浅草、お台場などへの便が良く、地元にも大学もあることから、外国からの観光客や学生が気軽に利用できるような宿にするという案。

などができました。

ワークショップを通して改めて建物の価値を認識するとともに、その良さを伸ばすことが活用方法として適していることが分かりました。



協働会館利用方法についての
ワークショップ

⑦勉強会の開催

月に2回程、協働会館の小部屋を借りて、お互いに調べたことを発表したり、活動の方針を決めたりする勉強会を開催してきました。自由参加にしていたお陰で、多くの方が参加してくれました。大体、各回10名ほどが参加していました。

⑧協働通信の発行

活動の内容を会のメンバーや支援者、関係機関の人に報告するために「協働通信」を月に1回ほど発行しました。地味な作業ですが、支援して下さる人や関係機関の方には会うたびに「送っていただいてありがとうございます」と言われ、会の活動のアピール手段としては良いようです。

III. 活動の効果及び今後の課題

協働通信を発行したり、イベントの開催により関係機関や地元町会とも良好な関係が築けてきていることは、大きな効果です。また、建物の所有者である東京都港湾局が、移築保存の検討をはじめており、建物の価値が認識されてきているものと思います。

しかしながら、私たちの希望は、あくまでも現地で保存・活用することです。そのためには、市民自身が協働会館の運営に携わるNPOが必要となってきました。(右図を参照)

芝浦・協働会館を活かす会の運営をNPOに変えていく必要があるのですが、そのための準備が大きな課題です。そして、協働会館をNPOに運営させるように所有者である東京都と交渉していくことが今後の大きな活動となりそうです。

N.P.O.協働会と協働会館の運営提案

